

### ① 沖縄県民と米軍基地 その疑問

私は沖縄出身の人間であるが、かねてより感じていたことが一つある。それは「沖縄県民はどうしてこうも『米軍』という言葉に過剰に反応するのか」ということだ。沖縄には日本全国の基地の約4分の3という広大な敷地の米軍基地<sup>1</sup>がある。米軍に関心を持つのは妥当だと言えよう。しかし、その反応というのがどうもネガティブな方向に偏っているのではないかと感じられた。

そこで、今回自分が行ける範囲で米軍基地のある街として思いついた横須賀に赴き、そこで感じたことと沖縄で感じていたこと、そしてこれから自分の故郷である沖縄が進むべき道を考えていきたいと考え、執筆に至った。

### ② 横須賀に赴いて

横須賀でまず感じたことは外国人が多いということだった。やはり東京や宇都宮とは違う雰囲気のある街だと感じた。米軍基地の横にある三笠公園までむかい、そこまでの人たちの雰囲気や街の様子を見てきたが、ここでは「米軍基地と調和している町」という印象を受けた。街にある店の看板には必ずと言っていいほど英語の字幕が付き、すこし通り入るとアメリカの旗を掲げた飲み屋が目に入る。窓から店内を覗いてみると壁にはバドワイザーやハイネケンのロゴがかかっていた。飲食店の店先には「1アメリカ\$ = 100円」と書かれた看板が立っていた。

また、少数ではあるが街の人にも「米軍についてプラスマイナスどちらのイメージを持つか」という質問をしたところ、多くの人が「普通」と答えた。「外国人だろうが日本人だろうが横須賀に住む人であることに変わりはない」とのことだった。

公式ホームページ<sup>2</sup>を見ても横須賀市は米軍基地やそれに関連する街の雰囲気を観光地として金を生みうるものとして見ているようで、「米軍基地と共生している街」であると感じた。

### ③ 沖縄県民の持つ米軍のイメージについて

さて、それに対して沖縄県であるが、さすがに今帰省することはかなわなかったので友人や浦添市に住む親戚に協力してもらって横須賀と同じく「『米軍』という単語についてプラスマイナスどちらの印象を持つか、またその理由はなぜか」という質問をしてもらった。

結果としてはほぼ全員がマイナスイメージを持っているとのことだった。理由は「オスプレイがいつ落ちるかわからないから怖い」「事件とかも起こすしホントに守ってくれるのか不安」など、「米軍」に対する不信感が主なものだった。「デモや地元の人たちの声は聞き入れず、国と取り決めた書類の上の条約に基づく範囲なら何もしてもいいと思っているのではないかと思う」という意見があったが、おそらくこれが米軍に反対する人たちの考えを最も的確に表したものだだろう。

浦添市のホームページ<sup>3</sup>を覗いてみたが、そこにある基地関連の記事はオスプレイ反対の県民大会への参加呼びかけなどだった。彼らにとって普天間基地は歓迎されるものではないということが見受けられた。

#### ④ 米軍について浦添市民のもつ横須賀市民との印象の違いとその考察

これらの経験や調べてきたことから考えるに、沖縄（浦添）と神奈川（横須賀）とでは米軍に対するイメージの違いがあることがわかった。浦添ではマイナス、横須賀ではプラスだ。そして、インタビューの答えを聞いているうちに見えてきたのが、直接と間接の違いである。

浦添でのインタビューではイメージの中心となる情報がニュースや新聞、学校などで人づてに聞いたものが主であった。人から聞いた情報なので、自ずと自分の経験などよりも他人のイメージや恣意的な情報が先立ってしまい、イメージに偏りがあるのではないかと。浦添市にはキャンプキンザーと呼ばれる基地があるのが、インタビューの答えにキンザーの名は上がらなかった。

身近に基地があり、それがどのようなものかを見極める機会には恵まれているのにも関わらず、他人の情報に流されているような気がしてならない。私の友人に自衛官を父に持つ者がいるのだが、彼曰く「米兵はかかわれば普通の人だし、むしろ違う文化圏の人だから一緒にいると楽しい」らしい。他の市町村での米軍関連の事件がおこり、その情報がニュースや新聞を通して入ってくるせいでイメージを上書きし、マイナスの方向にイメージが固定されてしまう。沖縄県には米軍の専用施設が数多く、米兵も多く働いているのだから問題を起こす人は一握りではあるがいるだろう。そしてそれはごくごく一部の人間なのだ。問題を起こす米兵より平和な心を持つ米兵も多いはずだ。だからインタビューで聞いた彼らのイメージは、自分の経験より他人から聞いたイメージやテレビや先生が言うのだからそちらの方が正しいのだという権威主義に染まってしまったもののように感じるのだ。経験が伴わないからこそ「怖い」「不安」と無知からくるあいまいな感想や考えが出てきてしまう。そしてそれは私の経験では沖縄全体にわたってしまっている。ふれあいの薄さ、それが浦添と横須賀でのイメージの違いの原因だと考える。

#### ⑤ これから沖縄がしていくべきこと

さて、ではそんな沖縄の人間がこれからしていくべきことは何か。先にも述べたが、まずは知らないことからくる不安をなくすことである。かつての米兵が起こした事件をみて今の米兵を計っているような現状を変えるべきである。しかし横須賀に赴いてそれには米軍の協力も不可欠である、と感じた。横須賀では米軍基地はもはや観光地のようになっており、事前に申し込みをすれば基地内の見学すらできる。対して沖縄では見学は許されておらず、ベースタクシーに乗って検問所まで乗るくらいが限界だ。これでは知ろうにも知ることができない。知らない人間、それも軍人に対してポジティブな思いを持つというのは押しつけだ。嫌われても仕方がないと言えるだろう。

つまり、大切なのは県民、米軍双方の「歩み寄り」の姿勢なのだ。県民は「米軍」に対してイメージや他人に流されず自分で調べて積極的に手に入れた情報を信じることだ。そして米軍はそれにこたえるべきなのだ。個人の見学を受け入れるなどして親しみやすさを前面に出し、不祥事を起こしたのなら会見を開いて県民に謝罪をし、オスプレイの配備などにはきちんと説明会を開くといった誠意をみせるべきだ。

そうすれば横須賀のような調和のとれた街になれるだろうと思うのだ。今こそ琉球王朝時代の「万国津梁」のスローガンと「守礼」の心を思い出す時が来ている。

- 
- <sup>1</sup> 防衛省 「2012 年度版防衛白書第 III 部」 『わが国の防衛に関する諸施策』  
[http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/2012/2012/html/n3213000.html](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/2012/2012/html/n3213000.html) (2014年1月現在)
- <sup>2</sup> 横須賀市ホームページ 「観光・文化・スポーツ」  
<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/kankou/index.html> (2014年1月現在)
- <sup>3</sup> 浦添市ホームページ 「学ぶ・楽しむ」  
[http://www.city.urasoe.lg.jp/index.php?topic=manabu\\_tanoshimu](http://www.city.urasoe.lg.jp/index.php?topic=manabu_tanoshimu) (2014年1月現在)